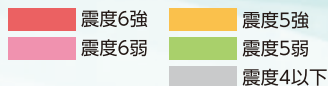
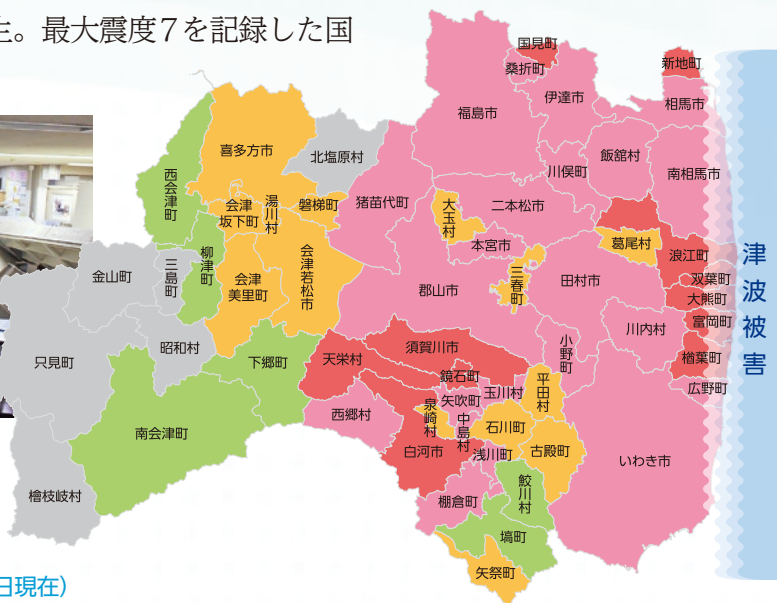


県内各地の震度

平成23年3月11日に三陸沖を震源としたマグニチュード9.0の地震が発生。最大震度7を記録した国内最大級の地震でした。



地震による県庁舎内の被災状況



人的被害 (令和2年12月7日現在)

死者	4,146人(うち震災関連死※2,316人)
行方不明者	1人

※震災関連死：地震などの直接的な被害によるものではなく、その後の避難生活での体調悪化や過労など間接的な原因で死亡すること。

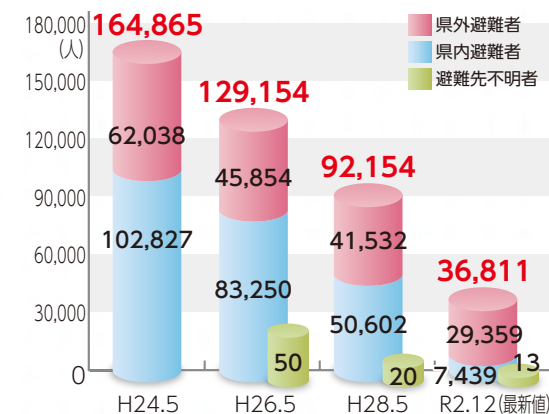


重機を使い捜索活動を行う警察職員 (福島県警本部提供)

家屋被害 (令和2年12月7日現在)

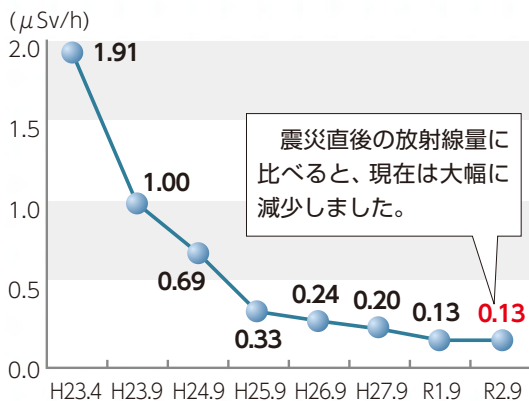
全壊	15,435棟
半壊	82,783棟

避難者の推移



[出典] 福島県災害対策本部「平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報」各月報

空間線量率の推移 (福島市)



[出典] 福島県災害対策本部 (暫定値)

除染の実施

放射線量低減のための面的除染が、平成30年3月までに、帰還困難区域を除いて全て完了しました。

住宅
(事業所等含む)
約**42万戸**

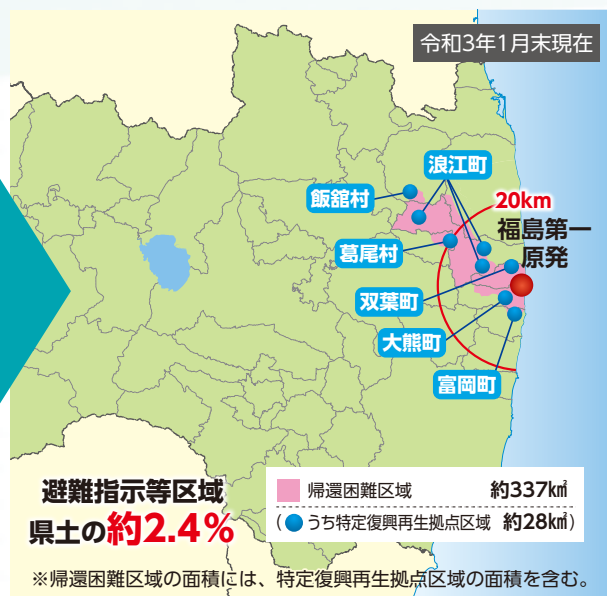
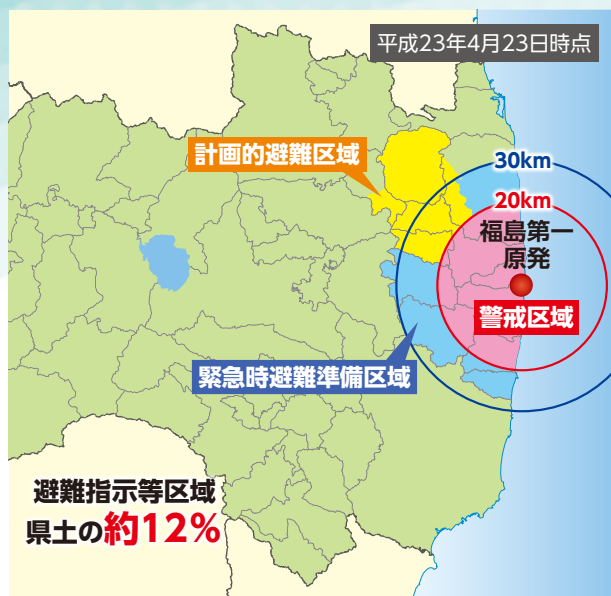
公共施設 (学校、公園等) 約**1.2万施設**

道路 約**1.9万km**

農地 (水田、畑地等) 約**3.1万ha**

避難指示区域の状況

帰還環境の整備により避難指示の解除が進み、県土に占める避難指示等区域の面積は約12%から約2.4%になっています。



公共インフラの復旧と整備

避難指示解除区域等の復興が早期に進むよう、浜通り地域への主要8路線の整備などが進められています。



復興状況



福島ロボットテストフィールド

陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点が南相馬市と浪江町に令和2年3月、全面開所しました。



JR常磐線

震災以降、一部の区間で不通となっていたJR常磐線が令和2年3月、9年ぶりに全線運転再開しました。



東日本大震災・原子力災害伝承館

令和2年9月開館。甚大かつ複合的な災害の記録と記憶を防災・減災の教訓として、未来へつないでいきます。

震災から間もなく10年の節目を迎えます。昨年、双葉町、大熊町、富岡町の帰還困難区域の一部地域で避難指示が解除されたほか、JR常磐線的全線再開、福島ロボットテストフィールドの全面開所など、本県の復興は着実に前進しています。一方で、今もなお多くの方々が避難生活を続けておられるほか、廃炉・汚染水対策、風評と風化の問題、急激な人口減少など、様々な課題を抱えていることから、4月から始まる第2期復興・創生期間においても、全力で福島の新しい未来を形作るための挑戦を続けてまいります。

知事メッセージ

Message



東日本大震災から10年
新たなステージへ

福島県知事 内堀 雅雄

地域と共に成長する道の駅を目指して



道の駅なみえ

ひがしやまはるな
駅長 東山 晴菜さん

関西で生まれ育ち、震災当時は大阪の有機農産物を扱う会社で食品バイヤーをしていました。震災後、関東以北の食品が売りづらい状況が続く、違和感を抱いていました。何ができるか分からないけど、向き合ってみようと福島に来たのが2015年です。

二本松市、南相馬市で働き、その後(一社)まちづくりなみえの方から声を掛けてもらい浪江町の地域づくり支援員となりました。帰還した方に暮らしや地域づくりについて聞いた話の中には、交流できる場所がほしいという声が多くありました。この道の駅は人と人とが交流す

楽しみに待つ人のため、作り続ける「あんぽ柿」



あんぽ柿生産農家

ししどさとし
穴戸農園 穴戸 里司さん

伊達市梁川町五十沢地区で約100年前から製造、販売が始まった県を代表する冬の味覚です。添加物を使わない自然な甘さで栄養価も高く、食物繊維も豊富です。出荷時期は3月下旬までで、まさに今が旬。

原発事故後、JAと生産者で果樹園の除染を行いました。あんぽ柿は干すことで水分が飛ぶため、セシウム濃度が高くなってしまったんです。震災後、2年間はひたすら除染と調査を続け、実った柿は全て廃棄…悔しくて涙が出る思いでした。その後、袋に梱包した状態で放射性物質検査ができる非破壊型の検査機が開発・導入されました。2013年から製品を全量検査し、安全性

福島の食と観光をつなぎ魅力を発信



特定非営利活動法人素材広場

よこたじゅんこ
理事長 横田 純子さん

25年ほど前から観光業に関わっています。今では当たり前の「地産地消」を宿泊施設で進めるため、農産物のブランド力向上や生産者と宿をつなぐ取り組みをしています。

震災直後は会津地方の観光もストップ。地産地消の取り組みの柱である生産者さんに生業を続けてもらうため、毎週土日、全国各地に福島の農産物の販売に出向きました。応援の声も、その逆もありました。誤解を解くため、小さな努力を続ける日々。震災直後は生産者さんが辞めてしまったら…という思いがありました。今はお宿さんと一緒に生産者さんの思いを動画にして

ることを第一に考えて設計されています。これまで出会った方々がここで交流してくれたらうれしいです。

建設中の2号棟には、大堀相馬焼の体験施設と、震災前は浪江町にあった鈴木酒造店さんの酒蔵が入ります。1号棟には無印良品も入る予定で3月がグランドオープンです。道の駅なみえは「成長」をコンセプトに掲げています。町が復興・変化していくように、私たちも成長し続けて、町民の方が主役になる、そんな道の駅にしていきたいです！



請戸漁港で水揚げされた「釜揚げしらす丼」と浪江産エゴマを使った「バナナとエゴマのスムージー」

道の駅なみえ
浪江町大字幾世橋字知命寺60

参考データ

県産農林水産物モニタリング等の状況

県産農林水産物は出荷前に検査を実施し、安全性を確認しています。

米の全量全袋検査結果

【令和元年産】 玄米	検査点数	基準値超過数	超過数割合
令和元年8月26日～ 令和2年11月30日	約949万点	0点	0.00%

※主食である米については平成27年産米以降5年間基準値超過がないことから、令和2年産米より避難指示等のあった12市町村を除きモニタリングに移行しました。

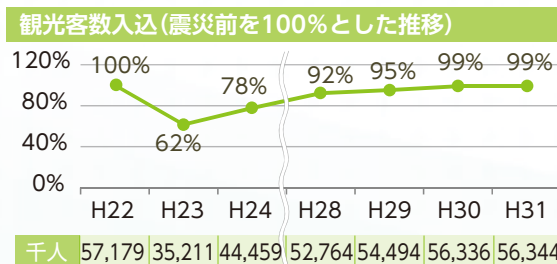
野菜・果物、畜産物等の検査結果

【平成31年4月1日～令和2年3月31日】

種別	検査件数	基準値超過数	超過数割合
野菜・果実	2,180件	0件	0.00%
畜産物	4,102件	0件	0.00%
栽培山菜・きのこ	1,161件	0件	0.00%
海産魚介類	5,439件	0件	0.00%
内水面養殖魚	66件	0件	0.00%
野生山菜・きのこ	781件	0件	0.00%
河川・湖沼の魚類	1,129件	4件	0.35%

【出典】福島県環境保全農業課
農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング実施状況

観光客の推移



一つ一つ丁寧に、手作業で作られています

れる人がいて、うれしかったですね。
震災が起きたときは、10年先なんて考えられなかった。先人たちが受け継いできた文化、あなば柿を使った新しい商品作りなども取り入れて継承していきたいですね。

を確認した上で出荷を再開。現在の出荷量は震災前と比較して、8割程度まで戻っています。出荷できない間も待つてく



生産者さんと一緒に活動しています

宿があって、あの生産者さんがいて良かったと思ってもらえる関係作りをしたいと思います。そしてその宿に泊まりに来てくれた方に福島を好きになってもらって、また足を運んでもらえたらうれしいですね！

宿で流せないかなど、新たなチャレンジをしています。宿は地域の観光商社、そして食育の場でもあります。今後は、あの